

## 第2回旭川駅周辺かわまちづくり検討会 議事要旨

日 時：令和5年8月31日(木) 18:30~20:30

場 所：旭川合同庁舎 西館1階 会議室

出席者：9名（出席者名簿のとおり）

議 題：前回検討会等の振り返り・今年度検討会で実施する事項の確認・各WGを踏まえたソフト施策の検討及び対応方法・次年度以降の推進体制・今後のスケジュールについて

### 1. 議事

#### (1) 前回検討会等の振り返り

事務局(旭川市)から前回検討会等の概要の説明を行い、委員の了承を得た。

#### (2) 今年度検討会で実施する事項の確認

事務局(旭川市)から今年度検討会で実施する事項に関する説明を行い、委員の了承を得た。

#### (3) 各WGを踏まえたソフト施策の検討及び対応方法

事務局(旭川市)から各WGを踏まえたソフト施策の検討及び対応方法に関する説明や、旭川観光コンベンション協会からサイクリングマップの紹介、ミズベリング旭川からラフティング試乗(8月30日実施)の報告を行い、委員から以下の発言があった。

#### 1) サイクリングコースの設定について

##### 【委員A】

サイクルステーションについては、(しまなみ海道の)オアシス的なものと少しハードルが高い。最終的には、喫茶店の利用や休憩も兼ねたイメージに繋がっていくと思うが、トイレ・休憩・給水所がないと安心してコースを回れないので、まずはこれらをメインに機能面を考えていく必要があると思う。

##### 【委員B】

地域との触れ合いをサイクリングコースの中にどのように設定していくかが大事だと思う。

現在生業としてあるもの・自然・文化・歴史遺産を見つけ出して、それをいかに上手く組み込んでいくかといった発想が必要である。利用者が文化・歴史と触れ合うような機会をどう上手く作っていくかが大事で、旭川観光コンベンション協会のサイクリングマップは大事なヒントになると思う。

##### 【委員C】

レンタサイクルの利用者へのアンケート結果から、実際にJR旭川駅から自転車に乗って旭山動物園に行っている観光客はいる。また、JR旭川駅で自転車を借りる方には、都心にありながら

自然を感じることを目的としているとの回答も多く、そういったニーズを上手くキャッチして、サイクリングコースマップを作れば良いと思う。

## 2) アクティビティの利活用に関する意見等について

### 【座長】

鏡池付近では、現在も多くのイベントを実施されており、今後一層重要性が増すと思われるので、利活用に関わる環境の改善が必要になると思う。

### 【委員 D】

今年から入ってきた SUP はカヌーよりも水に浸かることが多く、水質がとても影響してくる。臭い匂いや藻が大量発生するといった状況は避けたいので、改善されれば良いと思う。

### 【委員 E】

現在、鏡池は公園敷地となっている。今後、色々な問題点を解決しながら使いやすくしていく方向になると思うので、かわまちづくり計画を推進する中で、忠別川のハード整備として水質改善も盛り込んで検討していくのはどうか。かわまちづくりと別枠でやるとなかなか進まない感じがする。

### 【委員 B】

鏡池の水質が悪くなっている原因は何なのか。

### 【委員 E】

新しい水が入ってこないことで鏡池の酸素濃度が少なくなり、それに伴い栄養価が高くなって酸素を必要としない藻等が発生し、水質が悪くなる。水質を改善するには鏡池の水を循環させるしかないと思われる。

### 【委員 A】

大雨で忠別川の滞筋が変わっていくのだと思うが、取水口の問題も念頭に入れた検討をしていないと、同じことが今後また起こると思う。取水口を根本的に見直したほうがよいと思う。

### 【事務局(旭川市)】

鏡池が完成した当初は取水口付近に滞筋があったが、大雨等で滞筋が変わり、現在は滞留した水を取水しているため、水質が悪化していると思われる。今後、河川管理者等と協議し対応していきたい。

### 【委員 F】

先日、あさひかわ北彩都ガーデンで試験的にキャンプ事業を実施したが、良い観光資源との意見も多く、ここの利活用をもっと推進していく必要があると感じた。北彩都ガーデンでイベントがやりやすいようになれば良いと思う。

また、キャンプに併せて e-bike の試乗も行った。旭川に住んでいる人からしても全然知らない景色が見えたりする。普段行かないところを自転車で走ることによって新しい旭川の発見になった。

### 【委員 D】

北彩都ガーデンで今までキャンプはできなかった。色々なやり方で一つのことを実施してみて、出来上がった絵面を実際に見て、その後に繋げていくことはすごく大事なことで、そういう意味で今回のキャンプ事業の実施はとても良かったと思う。

【委員 G】

夏休み中に水難事故があったので、安全面というのが一番に頭に浮かぶ。鏡池を活用する時に、安全面、人員・物的配置が工夫されていけば、子どもたちもきっと活用できる幅が広がると思う。また、川の中でも安全な場所や危険な場所が分かると、学習に使えると思う。敬遠しがちなのだが、学んで活用できるというところに繋げていかないと教育ではない。

【委員 E】

水辺で子どもたちを遊ばせる RAC リーダーの勉強をしているが、こうした人材がどんどん増えていけば、川のルールに関する教育も今後できると思う。

【委員 H】

前回の検討会で、川や水と親しめるというイベントの案内が学校にもっと案内されれば良いという意見もあり、6月にまちなかアクティビティのチラシを作って学校に配布した。たくさんの来訪があり、安全に楽しく水と触れ合える場面・機会を少しでも増やしていくことの一つのきっかけになったと思う。

3) 環境教育の推進に関する意見等について

【委員 G】

総合的な学習の時間を中心に、川に関する色々な学びがある。川に関連のある学習についてのアンケートを取って、どんなところに課題があるのか、どんなふうにしたらできるのか、こんな体験もできるのではないかとこのところに絡めていけたら良いと思う。また、川に関する色々な動画や川の安全に関わる情報等がたくさんあるので、情報を一元化していくことで、川をもっと身近に感じられる子どもたちが増えて、教師もそこから学習に繋げることができると思う。

【委員 D】

川の説明は、ラフティングガイドや、ガイドカンパニーの中で川に詳しい人に頼むというのが一番手っ取り早い。毎日のように川を見ている人たちなので、どんどん使っていって良いと思う。

【委員 E】

人材はたくさんいるが、産学官が全然繋がっていない。産学官が繋がっていると人材が回りアイデアも出てくる。旭川は学校と繋がっていないというのが一番問題なので、1年に1回でもよいので産学官で連携して何かをやるということが、今後の旭川の発展に繋がると思う。

【委員 H】

川から水を取って検査薬で調べるといった取り組みをしている学校があると聞いている。

「川のまち旭川」を子どもたちが知ることで、郷土愛や愛着がわくと思うので、そういった取り組みはとても良いと思う。川にまつわる色々な要素を上手くまとめることで、川の魅力を伝えることができると思う。ガイド一人では難しい部分もあると思うので、そういうのをうまく蓄積していくことで、本当により良い環境教育、川にまつわる教育ができると思う。

【委員 B】

川での危険回避というのは、知識だけでなく体験的なものがベースになって、そういう能力を身につけていくものだと思う。今は川に近づくなというのが全体的にあるので、子どもが水に入らなくても、水辺や川岸で憩える、遊べる、触れ合うといった場面を極力多くしていかないとだめではないか。大人自身が川を楽しむ機会を作りながら考えていく必要がある。川とどう触れ合い関心を持っているかが、川のまちの本質を決めると思う。

**【委員 D】**

色々なことを知っている大人が子どもに教えてあげることがとても大事だと思う。

**【座長】**

全国的に、水辺で学んだり遊んだりという事例はあると思うので、参考にできる良い事例があれば事務局で調べてもらって、次回の検討会等で提案してほしい。

#### 4) ICT を活用した情報提供に関する意見等について

**【座長】**

極力費用をかけないで効率的に情報発信するというのが今非常に重要となっているが、難しく苦慮している。Instagram が情報発信の面で一番効率的であるという話も聞く。

**【委員 F】**

SNS の公開頻度を上げるのが一番良いと思う。SNS を立ち上げて終わりになることが多いので、立ち上げたからにはしっかりやっていくことが大事になる。また、投稿写真から楽しさが伝わってこないと見ている人もつまらないので、工夫すれば見る人は増えると思う。

#### 5) 安心・安全な水辺利用に関するルール作りについて

**【委員 B】**

川やサイクリングも含めて、何が魅力になっているのかを把握することが大事で、そこからどんなルールを作ったらいいかということが見えてくると思う。

#### 6) ラフティング利用について

**【委員 E】**

水位が 30 cm ぐらい違うと、川の雰囲気は全く変わってくる。昨日のラフティング試乗で、危険と判断して退避した 3 箇所については、8 月の出水時に河岸が削れて倒木し、それが流れて河道を閉鎖している状況であった。今後、河道の維持管理が大きな問題点になるのは、ラフティング試乗参加者に共感してもらったと思うので、倒木の維持管理やその仕組みづくりについて、河川管理者に対応をお願いしたい。

**【委員 A】**

自然の条件が整わないと、川でアクティビティをするのはなかなか難しい。アクティビティができる条件をどうやって作るかが一番の課題だと思う。

**【委員 B】**

忠別川が濁水になった時に、サケ産卵床への配慮が必要と思われる箇所が 3 箇所ぐらいあった

ので、ルール作りに活かしていければと思う。

【委員 F】

神楽岡公園付近から JR 旭川駅裏ぐらいの、1 時間程度でラフティングが終わるような短い距離のニーズがあるかもしれない。コース取りや距離等を含めて色々検討したら、もっと川下りをしたい、もっと簡単にやってみようとなるかもしれない。

【委員 D】

忠別川は勾配がきつくて流れが速いので、障害物の除去がやはり大きなポイントになってくると思う。

【委員 H】

常時ボートで遊べる状況を作るのは本当に大変で、費用や維持管理の面が改善されなければ難しい。また、水がすごくきれいという印象はなく川っぼい臭さを感じたので、ラフティングをやる人にとって色々と感じるところがあるのではないか。

【座長】

橋の上からラフティング試乗を見ていたが、最近雨も降っていなくてずっと天気が良かったのに川の透明度が低かった。何が原因なのか。

【委員 B】

泥川であるポン川の影響を受けていると思う。普段から、忠別川本川とポン川で川筋の色が違っている。

(4) 次年度以降の推進体制

事務局(旭川市)から次年度以降の推進体制(助成金の応募等)に関する説明を行い、委員の了承を得た。

(5) 今後のスケジュールについて

事務局(旭川市)から今後のスケジュールの説明を行い、委員から次の発言があった。

【委員 E】

来年度から事業に関連する設計が始まると思うが、例えばラフティングボートの乗下船する箇所等の設計に関して、北海道開発局が独自に進めていくということになるのか。

【事務局(旭川開発建設部)】

施設形状等について、会議等で図面を見ていただく必要があると考えている。

以上